

中国の学校教育における食育カリキュラム開発(2)

—中国の幼稚園用『健康習慣』における食育内容の分析—

劉智萍¹・柴英里²・菊地るみ子²

(¹天津師範大学教育科学学院・²高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門)

School Curriculum Development for Food and Nutrition Education in China (2): Analysis of Food and Nutrition Education Contents of “健康習慣(*Healthy Habits*)” for Preschool in China

Zhiping Liu¹, Eri Shiba² and Rumiko Kikuchi²

¹*Faculty of Education and Science, Tianjin Normal University;*

²*Kochi University Research and Education Faculty Humanities and Social Science Cluster
Education Unit*

Abstract

“幼儿园教育指导纲要（试行）(*Early Childhood Curriculum Guidelines*)” were promulgated by China’s Ministry of Education in 2001. These guidelines consist of five disciplines, which are Health, Language, Social Studies, Science, and Arts. The purpose of this study is to analyze four “健康習慣 (*Healthy Habits*)” books, which are covering health area, to find out what kind of Food and Nutrition Education contents are included in the books. These books intend to establish good eating habits during each developmental stage. There are many pictures or illustrations, so children can enjoy reading and/or learning using the books. The main learning strategies are to acquire knowledge about food names, nutritional value, food safety, table manners, meal size and mealtime, and digestion, to compare one with the others, and to choose the better. The importance of conversations and relationships with others during the meal are not included in any of the books.

Ministry of Education of the People’s Republic of China published “3-6 岁儿童学习与发展指南(*Guidebook for learning and development among 3 to 6 years old children*)” in 2012. Similar to *Early Childhood Curriculum Guidelines*, the guidebook contains five areas. In these areas, “Health” area has three perspectives, which are “身心状况(*physical and mental conditions*)”, “动作发展 (*behavioral development*)”, and “生活习惯与生活能力 (*living habits and abilities*)”. Contents related to Food and Nutrition Education are included in “具有良好的生活与卫生习惯 (*establishing good living habits*)”, which is a part of the “生活习惯与生活能力 (*living habits and abilities*)”.

キーワード：中国，食育，カリキュラム開発，幼稚園教育，食育内容

Keywords: China, Food and Nutrition Education, curriculum development, early childhood education

1. はじめに

近年日本においては、食生活における様々な課題が浮上した結果、2005年に「食に関する適切な判断力を養い、生涯にわたって健全な食生活を実現することにより、国民の心身の健康の増進と豊かな人間形成に資することを旨として」食育基本法が制定された。食育基本法の第6条には「食育は、広く国民が家庭、学校、保育所、地域その他のあらゆる機会とあらゆる場所を利用して、食料の生産から消費等に至るまでの食に関する様々な体験活動を行うとともに、自ら食育の推進のための活動を実践することにより、食に関する理解を深めることを旨として、行われなければならない。」¹⁾とされており、様々な場面で食育に取り組んでいる。その背景には、食育は「生きる上での基本であって、知育、徳育、体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる」²⁾ことの重要性が認識されたことがあげられる。中国においても、経済成長とともに豊かな食生活が実現してきており、望ましい側面とともに様々な課題が浮上している。そこで劉は、日本の食育のプログラムを参考にしながら検討し、日本の幼稚園で実践されている食育について観察結果を報告するなど、中国への示唆を得ながら食育研究に取り組んできている^{3),4)}。

今回の研究では、中国の学校教育における食育カリキュラムを開発するために、まず中国の子どもをめぐる食生活の課題と現状について検討を行った⁵⁾。引き続き本研究では、2001年に中国国家教育部が公布した『幼稚園教育指導綱要(試行)』にもとづいて作成された『幼児多元知能開発課程「健康習慣」』冊子(教科書のようなものであり、実際に幼稚園で使われている。以下は、『健康習慣』とする。)を取り上げて、中国の幼稚園教育において始められている食育の内容を検討し、日本の2008年改訂版『幼稚園教育要領』で新たに加わった食育内容⁶⁾と比較検討し、中国幼稚園における食育のさらなる発展をめざすこととしたい。『健康習慣』は、教師にとって、「日常の教育課程で、幼児の総合的な素養を高めること、良好な習慣を培うこと、楽しく勉強させることに役に立つもの」とされている。全体は(托班、小班、中班、大班、幼小)の五大シリーズに分かれているが、本研究では、そのうち小班上・下(年少児向け)、中班・上(年中児向け)、大班・上(年長児向け)の冊子を取り上げて分析した。

2. 中国の幼稚園教育における幼児の「健康」についての指針

2012年9月、中国国家教育部は「3~6歳児における学習と発達のためのガイドブック」⁷⁾を配布した。このガイドブックは、「健康・言語・社会・科学・芸術」の5領域からなり、「健康」については「心身の状態、行動の発達、生活習慣及び生活能力」の3つの観点で構成されている。

このうち、「生活習慣及び生活能力」の「良好な生活習慣を身につけること」について、年齢別に目標を示した。

食生活について、3~4歳では「偏食せず、果物と野菜などの生鮮食品が好き。」「水を飲む必要性が分かる、炭酸飲料などの飲み物をたくさん飲まない。」、4~5歳では「偏食せず、暴飲暴食をしない。果物と野菜などの生鮮食品が好き。」「水は日常的な飲料にし、炭酸飲料などの飲み物をたくさん飲まない。」、5~6歳では「食事時、よく噛んでゆっくり食べる。」「積極的に水を飲む、炭酸飲料などの飲み物をたくさん飲まない。」である。

教育の提案については、「幼児が良好な食習慣を身につけるように支援する」ことであり、具体的には「幼稚園は合理的に食事を手配し、幼児に食事を決まった場所で、決まった時間に、決まった量の食事習慣を身につけることを支援する。」「幼児が食べ物の栄養価を知り、偏食をしないように支援する。健康に良くない食品を食べず、水をよく飲む、炭酸飲料などの飲み物をあまり飲まないことを誘導する。」「食事時幼児を急がせず、幼児によく噛んでゆっくり食べて、食べながら遊ばないように誘導する。」の3点をあげている。

この「3~6歳児における学習と発達のためのガイドブック」配布より前に、『健康習慣』は出版されている。

編集者のあとがきには、「子どもは国家の未来であり、子どもの未来は教育に頼り、今の最先端の教育理念と教育方法を利用して子どもを育てることは、われわれはどうしても辞退できない責任がある。」とし、「幼児教育は生活と遊びから教える。良質の幼児教材は真の意義上幼児の学習意欲を育成し、幼児の知能を発達させ、幼児によい習慣を身につけて、健康的に成長させる。」という考えが述べられている。そして、「優秀な幼稚園教師、ベテランの幼児教育の専門家、幼児図書の編集者を集めて、多年の教育経験と最新の幼児教育理念に基づいて、教育部が公

布した『幼稚園教育指導綱要（試行）』の中の5大領域を中心として、全般にわたる幼児教材シリーズ『幼児多元知能開発課程』を編集した」としている。また『幼児多元知能開発課程』の特徴や教育内容については、次のように述べている⁸⁾。

『幼児多元知能開発課程』は、できるだけ知識を幼児に受け入れやすいゲーム、童謡、ストーリーなどに取り入れて、幼児の自立的な思考分析と問題解決の能力を高めようとしている。教材は、生活、運動、ゲームと学習の4側面から、表現、対話型、探求、想像、操作、創造等お互いに影響し合う学習方法を通して、違う年齢の幼児の知能発達の特徴に合わせて、心をこめて開発した。幼児を楽しく学習させ、学習意欲を高めさせる。幼児が自分の知能の特長によって、それぞれの単元活動から知識を得る。教師は、幼児の学習している様子を見て、幼児の知能の特徴を理解し、優秀な幼児の知能をさらに開発すると同時に、そうでない幼児の発達を支援する。

教育内容は国語、数学、健康、社会、科学、音楽、美術、ピンイン、英語、弁舌の才、上演など諸領域に関連して、各段階の幼児の学習に満足させる。全本は絵と文章がともに充実していて、内容を合理的に構成している。幼児が学びやすくするために、教具を用意して、教師が実演しながら、幼児と対話する。全本は生き生きして、面白くて、幼児のために作ったよい教材である。

3. 『健康習慣』における食育内容の事例

一連の『健康習慣』冊子の中から、食育に関する内容を取り上げ、検討する。

(1) 『健康習慣（小班・上）』

まず、『健康習慣（小班・上）』⁹⁾は19テーマであり、3テーマが食育関連の内容であった。1つは①「手洗いの方法」であり、P.16, P.17の2頁にわたり、ていねいな手洗いのしかたを写真で提示している。2つめは②「野菜と果物」（P.12）であり、野菜と果物の写真を載せて、名前を知り、野菜と果物をよく食べると体によいことを知らせる（図1）。「野菜と果物には豊かな栄養があります。あなたたちは、どんな野菜と果物が好きですか？鉛筆で丸をつけましょう。」と働きかけている。教師側には、「幼児に野菜と果物の見分け方を指導する。野菜と果物をよく食べたら、体にとてもよいということを幼児に教える。」と示している。



図1 出典：『健康習慣（小班・上）』

現代出版社，2010年，P.12 抜粋



図2 出典：『健康習慣（小班・上）』現代出版社，2010年，P.23 抜粋

3つめは、③「誰がいちばん」（P.23）であり、上手にスプーンが使えるようになることをめざしている（図2）。

「あなたたちは自分で、スプーンでご飯を食べることができるかな？できるなら、自分に小赤旗を画いてあげましょう。」と働きかけている。

教育提示：「幼児に正しくスプーンでご飯を食べることを指導する。自分でご飯を食べることはすばらしいことと感じさせる。」と教師側に求めている。

(2) 『健康習慣（小班・下）』¹⁰⁾

つぎに、『健康習慣（小班・下）』でも19テーマが取り上げられており、うち3テーマが食育関連内容である。まず①「食べられないもの」では、8つのかわいいイラストを提示している。教育提示では、「衛生や安全を考慮して幼児が食べられない食物を認識し、体に良くないことを知らせる」と記載している（図3）。

「あなたたちは、つぎの食べものがたべられるかどうかを発表できるかな?」と問いかけている。



図3 出典：『健康習慣（小班・下）』現代出版社，2011年，P.8,P.9 抜粋

上段左から横に、「蝇がとまった物」「発芽したじゃがいも」「かびが生えたケーキ」「ひびが入った卵」を、下段左から横に、「賞味期限が過ぎた食物」「変質して膨らんだビスケット」「露天での焼き物」「揚げ物」を例示している。下段右端「揚げ物」は、ファーストフードのような食品が例示されており、体によくないのではないかと考えさせようとしている。

②「果物を食べる」テーマでは、いろいろな果物の食べ方と衛生についての知識を教えている（図4，図5）。



図4 出典：『健康習慣（小班・下）』，現代出版社，2011年，P.18 抜粋

P.18「果物を食べる」 「あなたたちは知っていますか？それぞれの果物には違う栄養が入っていますよ。」

葡萄とスイカは、色がいい、
果実の皮と種は、飲み込まない！
パイナップルと桃、甘くて大きい、
洗って皮をむいて、食べる！



図5 出典：『健康習慣（小班・下）』，現代出版社，2011年，P.19 抜粋

P.19「果物を食べる時に注意すること：」

くさい果物を食べない
果物をきちんと洗う
果物の種をのみ込まない
果物の皮をゴミ箱に捨てる
教育提示：幼児に果物を食べた経験を話させる。幼児に果物を食べる習慣と衛生に気をつけさせる。

③「口を拭いてね」（P.23）では、食後の作法を指導している。

「友だちと一緒に食べるのは楽しいね。食べた後、口を拭くことを忘れないでね。」

【イラスト表現】①ご飯の時間だ、みんな座ってご飯を食べよう。

②熊さんはご飯を食べた後、ティッシュで口を拭いた。

③狐さんはご飯を食べた後、ハンカチで口を拭いた。

④猿さんはご飯を食べた後、タオルで口を拭いた。

教育提示：「集団で食事をする習慣を培う。健康的な生活習慣を育成する。」

(3) 『健康習慣（中班・上）』¹¹⁾

『健康習慣（中班・上）』は19のテーマがある。成長を実感させ、健康や安全に注意して過ごすこと、後片付けなど、生活面と道徳面での生活習慣を育成しようとしている。食育に関連する内容としては、テーマ①「歯を愛する子ども」（P.6）があり、幼児が小さい時から歯を保護し毎朝晩歯を磨く習慣を身につけさせようとしている。

子どもたちには、「あなたたちは歯を大切に守る子どもなのかな？つぎの絵の中で、一番歯を愛しているのは誰かな？赤い花をつけてあげましょう！」と働きかけており、イラストを見ながら歯の健康に必要な注意点を考えさせようとしていることがわかる（図6）。

教師側には、教育提示：「子どもの時期から歯を大切にすることを教えて、毎日の朝晩に歯を磨く習慣を培う」と記載されている。

P.6

「お菓子をいっぱい食べている男児」「鏡を見ながら歯を磨いている女児」
「空の食器の前に座って何かを飲んでいる男児」「寝床の中でお菓子を食べている男児」



図6 出典：『健康習慣（中班・上）』

現代出版社，2010年，P.6抜粋

(4) 『健康習慣（大班・上）』¹²⁾

『健康習慣（大班・上）』には21のテーマがあり、食育関連内容は5つのテーマである。

①「健康な国家の未来の主人（健康な子ども）」（P.6）

「よい習慣を身につけたら、かわいらしい子どもになれるよ。あなたたちは健康な子どもなのかな？ 自分は、毎日なにをしているのか考えて？」

【イラスト表現】 服を着る 歯を磨く 顔を洗う 朝体操をする
手を洗う ご飯を食べる 水を飲む トイレに入る 風呂に入る

教育提示：「規則的な生活時間を守って、よい生活習慣を培う。」

②「ご飯を食べよう」（P.10）（図7）

「つぎの4つの絵の中の子どもたちは、どのようにご飯を食べてるのかな、誰の習慣がいいのかな？ 誰の習慣はよくないのかな？ 誰を模範として学んだらいいのかな？」

教育提示：「イラストを比べながら考えさせて、食事時よく噛んでゆっくり食べて、良好な食習慣を身につけさせる。」



「食べ物をすごい勢いでかきこむ」
「テレビを見ながらご飯を食べる」
「ご飯の前にお菓子をいっぱい食べた」
「定刻定量で、静かにご飯を食べる」

図7 出典：『健康習慣（中班・上）』現代出版社，2010年，P.6抜粋

③「一人の二二ちゃん 二つの様子」（P.11）（図8）

教育提示：「一人の二二ちゃん、二つの様子」を見せて、幼児に食べ物を好き嫌いすることの問題を教える。よい飲食の習慣を培う。」



図8 出典：『健康習慣（大班・上）』現代出版社，2010年，P.11 抜粋

P.11「昔の二二ちゃんは食べ物をえり好みして、細くて背が低かった。今の二二ちゃんは時間通りにご飯をたべて、食べ物を好き嫌いなく食べて、色が白くて背が高い。あなたたちは、どっちの二二ちゃんがすきかな？それはどうして？」

④「胃さん、元気？」（P.15）

食べ物と「胃」との関係を取り上げている。「胃」の立場で解説している点が興味深い。



図9 出典：『健康習慣（大班・上）』，現代出版社，2010年，P.15 抜粋

P.15「胃さん、元気？」

左上「わたしの名前は「胃」といい、わたしは食べものを消化する働きをします。」

右上「食べるのが少なかったら、胃はぺこぺこです。」

左下「食べすぎたら、胃が丸くふくらんでいます。」

右下「決まった時間に決まった量を食べたら、わたしは気持ちいいです。」

教育提示：

胃の話を通して、胃を守ることの重要性を教える。胃を守る方法を学ばせる。

⑤「消化のひみつ」（P.16, P.17）

食べ物が胃袋に入ってから、しだいに消化されていき、最後には大便となって出る様子がかわいいイラストでわかりやすく描かれている。



図10 出典：『健康習慣（大班・上）』，現代出版社，2010年，P.16-17 抜粋

P.16-17 「消化のひみつ」

「あなたたち、食べ物はどのように体の中で消化するのか知ってるかな？一緒にこのひみつをさがりましょう。」

教育提示：

幼児に食べ物の消化過程を教える。各消化器官の名称と機能を簡単に認識させる。

4. 『健康習慣』に取り上げられた食育関連内容の検討

『健康習慣』4分冊で取り上げられた内容は、中国の「3～6歳児における学習と発達のためのガイドブック」とも合致する内容であった。『健康習慣』は、この「ガイドブック」を具体化して実践できるようにしたものとして評価できる。食生活に関わる基礎的な知識を学ばせるために、写真やかわいいイラストを用いて親しみを感じさせるこ

とができるものであり、楽しく学習できるように工夫して作成されていた。しかし、これらの食育内容を日本の2008年版『幼稚園教育要領』と比べると、「先生や友達と食べることを楽しむ」という観点が乏しいことがわかる¹³⁾。中国では「誰がいちばん」（図2）「歯を愛する子ども」（図6）「ご飯を食べよう」（図7）に見られるように、他人と比較して選別する方法での競争が導入されており、日本での「和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わう」ことが推奨されているわけではない。この点を『保育者のための食育ガイドブック』¹⁴⁾（以下は、『食育ガイドブック』とする）の各年齢段階の「ねらい」と比較検討してみたい。

『食育ガイドブック』は、3歳児の発達にそった食育年間カリキュラムで、Ⅰ期（4, 5, 6月）のねらいは「いろいろな食品に慣れる、よくかんで食べる、自分で食べられる」、Ⅱ期（7, 8, 9月）は「必要量がわかる、マナーを身につける、食具の使い方を知る」、Ⅲ期（10, 11, 12月）は「食事に関心を持つ、食材の名前がわかる」「ひとりでじょうずに食べられる」、Ⅳ期（1, 2, 3月）は「仲間と食事をする、縦割り会食をする」、基本的な生活習慣を身につける」をあげている。つぎに4歳児では、Ⅰ期「新しい環境に慣れ、ゆったり食べる。いろいろな食材を知る。」、Ⅱ期「空腹を体験し、食べる意欲を育てる。いろいろな食材に興味や関心を持つ。」、Ⅲ期「食環境やマナーを身につけ、みんなと仲よく食事をする。いろいろな食材に親しむ。」、Ⅳ期「友達といっしょに、楽しく食事をする。いろいろな味がわかり、おいしく食べる」があげられている。そして5歳児では、Ⅰ期「基本的な生活習慣や態度を、みずから進んで身につける」、Ⅱ期「自分たちでルールを作り、守り、楽しくゆったり食事をする」、Ⅲ期「食事の持つ意義を知り、心身と食べ物の関係について関心を持つ」、Ⅳ期「人とかかわることで喜びを感じ、体験することで感謝の気持ちと態度を培う」をあげている。

『健康習慣』小班（年少児、3歳児向け）で取り上げられた食育内容は、「手洗いの方法」「野菜と果物」「誰がいちばん」「食べられないもの」「果物を食べる」「口を拭いてね」の6テーマであった。「手洗いの方法」「誰がいちばん」「口を拭いてね」の3つのテーマでは、食事作法と食べるための技術的能力を育成しようとしていることがわかる。「野菜と果物」「果物を食べる」では食品名を知らせて慣れさせ、自分で食べられることをねらいにしている。「食べられないもの」では、衛生や安全面の学びを中心に展開している。日本でのⅣ期に見られる「仲間と食事する」は、「誰がいちばん」（図2）の場面が近いが中国ではスプーンという食具の使い方に焦点があてられていた。『健康習慣』中班と大班は、いずれも下冊が手に入っていないので、じゅうぶんな分析ができなかった。中班上の食育内容としては「歯を愛する子ども」だけであった。大班上には「健康な国家の未来の主人（健康な子ども）」「ご飯を食べよう」「一人の二二ちゃん 二つの様子」「胃さん、元気？」「消化のひみつ」の5つのテーマが見られた。食事作法、食事量や食事時間、消化と吸収を取り上げている。

日本の食育と中国の食育を比較すると、中国では衛生面を丁寧に取り上げている。このことは健康に生きるための基礎として重要であるが、日本では「幼児に提供される食品は安全」という前提があるため取り上げられないのではないかと考えられる。食品への関心の高め方、生活習慣を身につけさせることなどは日中共通の課題であり、どの段階でどのように取り上げるかは異なっているとしても、日中共通に取り上げられていた。しかし、日本では他者との食事がかなり意識的に取り入れられているのに対し、中国ではあまり意識されているようには受け止められなかった。

5. おわりに

中国では、一日3食を集団保育の中で食べる子どもが増加している現状が報告されている。張・倉持¹⁵⁾は、中国幼稚園と日本の保育所の観察から、中国では食事のあいさつがないこと、静かに食べるのが推奨されていること、早く食べ終わる食べ方を教えていることを特徴としてとらえている。日本では食事は人間関係を育む場としてもとらえられているため、食事の前後のあいさつや自由な話、子どもが望む量でのお代わりを認めていることを特徴としてとらえている。張らは「中国の現状では、保育者も生活先生も、食事場面が持つ「栄養摂取」以外のたくさんの可能性があることを見落としているように見える」と指摘し、「とくに、「一人っ子政策」により「小皇帝」が増えているという現代的課題を抱えている中国においては、食事場面の持つコミュニケーションの役割を重視する必要

がある」¹⁶⁾と主張している。

劉と菊地が先行研究¹⁷⁾で行った中国の幼稚園教育への提言は4点あるが、「食べものへの興味関心を持たせること」「5領域の活動で食に関する活動を展開すること」は達成できそうであるが、張らが指摘したように「楽しみながら、食事時間を過ごせるようにする」「「思いやりの心」を育成する」というコミュニケーションの役割の点では食育に関して課題が残されているように思われる。今後も、このような点から中国の食育について研究と実践の進展に取り組んでいきたい。

本研究は、平成25年度科学研究費助成事業(課題番号:25560021)「中国の学校教育における食育カリキュラム開発の支援」(代表 菊地るみ子)の助成金にもとづいて劉智萍が来日し、高知大学滞在中に、共同研究として取り組んだものである。本稿をまとめるにあたって、翻訳にご協力下さった高知大学大学院総合人間自然科学研究科教育学専攻院生の李艶嬌さんに感謝いたします。

引用文献

- 1) 内閣府, 食育基本法 (<http://www8.cao.go.jp/syokuiku/about/law/law.html> 2013.9.20 採取)
- 2) 内閣府, 食育推進 (<http://www8.cao.go.jp/syokuiku/index.html> 2013.9.20 採取)
- 3) 劉智萍・菊地るみ子, 幼稚園における食育に関する研究—高知市内幼稚園での観察分析から中国の幼稚園における食育への示唆—, 高知大学教育学部研究報告, 71, P.1-8, 2011
- 4) 劉智萍・菊地るみ子(監訳,・解説)・林翠芳(抄訳), 学校における食育のプログラムが中国に与える示唆, 高知大学学術研究報告, 61, P.245-252, 2012
- 5) 劉智萍・柴英里・菊地るみ子, 中国の学校教育における食育カリキュラム開発(1)—中国の子どもをめぐる食生活の現状と課題—, 高知大学学術研究報告, 62, 2013
- 6) 劉智萍・菊地るみ子(監訳,・解説)・林翠芳(抄訳), 2008年版『幼稚園教育要領』からみる日本の幼児教育の新理念, 高知大学学術研究報告, 61, P.235-243, 2012
- 7) 中华人民共和国教育部官方网站《3-6岁儿童学习与发展指南》(http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s3327/201210/xxgk_143254.html 2013.9.15 採取)
- 8) 英子・謝紅亮編, 幼儿多元知能开发课程 健康习惯(小班・上), 現代出版社, 裏表紙, 2010
- 9) 英子・謝紅亮編, 幼儿多元知能开发课程 健康习惯(小班・上), 現代出版社, 2010, 24pp.
- 10) 英子・謝紅亮編, 幼儿多元知能开发课程 健康习惯(小班・下), 現代出版社, 2011, 24pp.
- 11) 英子・謝紅亮編, 幼儿多元知能开发课程 健康习惯(中班・上), 現代出版社, 2010, 24pp.
- 12) 英子・謝紅亮編, 幼儿多元知能开发课程 健康习惯(大班・上), 現代出版社, 2010, 28pp.
- 13) 6)に同じ、P.236
- 14) 高橋美保, 保育者のための食育サポートブック、ひかりのくに、P.19-23, 2010
- 15) 張静・倉持清美, 集団保育の食事場面における中国の保育者の関わり方—日本との比較から—, 保育学研究, 50(2), p.39-50, 2012
- 16) 15)に同じ、P.49
- 17) 3)に同じ、P.8

平成25年(2013)9月30日受理
平成25年(2013)12月31日発行